

人生の春は目の前に

三郷小学校 5年
村瀬 彩

私の姉は今年の夏、吹奏楽コンクールの県大会に出場しました。結果は銀賞、みんなが大泣きでした。くやしい、かなしい、全員同じ気持ちだったと思います。そんな姉たちのすがたを見て、私はうらやましく思ったのです。なぜでしょうか。みんなが全力で努力して、みんなが同じ気持ちで、悲しんでいたからだと思います。私は五才からバイオリンをひいていますがコンクールに出るのは、一人で仲間とよろこび合ったり、悲しみ合ったりは、しません。結果をうけとめるのも私、一人です。同じ気持ちの仲間がいるのはすごいいいなと思いました。

コンクールが終わると、先ばい達が卒部してこの夏は終わってしまいます。先ばいと一日でも長く部活がしたい、そんな気持ちだったと思います。毎日毎日部活に行って、いつもは朝早く起きられない姉も、部活がある日は必ず時間に起きてきました。いつも部活が大変なはずなのに、部活から帰ってくると、行く時よりも元気に帰ってきます。丸一日部活の日は、へとへとになって何もできないぐらい全力で部活に打ちこんでいました。

本番は家族で応援に行きました。どの学校よりも楽しそうで、人数が少ないのに心ぞうがふるえるほど迫力がありました。銀賞と知って夏が終わってしまった姉、その夜は、くやしすぎてあまりねられなかったと言っていました。そんなにつらい練習をのりこえられたこと、夜ねられなかったというのは、それだけ部活が大好きだったからだと思います。みんなで心をつにして本気で努力することは、やった人にしか分からないよろこびがあると私は思います。もしコンクールで努力しないで金賞がとれても、全然うれしくないはずですよ。達成感もなく、がんばった自分をみとめることもできません。本気で努力したら、どんな結果でもむねを張ってうけと

められます。確かに、くやしい気持ちやかなしい気持ちにもなるけれど、得た物はたくさんあるはずで、どんな結果でも自分をたくさんほめてあげる事が大切だと思います。姉たちも、たくさんいいところがあったので、自分達をせめないでほしいなと思いました。コンクールは、結果が一番と思いがちですが私は、結果はついてくるものだと思っています。私にとってのコンクールは、一度だけの本番のために、ひたすらコツコツと、ふだんの練習ではつきかさねないほど、高い目標に向かって努力をするものです。その努力に後悔がないことが大切です。賞を決めるしん査員の人によって音楽の感じ方がちがうので、結果も大事ですが私は、あまり結果にとらわれすぎないようにしたいと思っています。姉たちが過ごしたこの夏、私は、青春だなと思いました。青春という意味をもう一度調べました。すると、青春とは人生の春であるという言葉が出てきました。その言葉を聞いて、とてもなっとくしました。姉は中学生なのに、まだ春なんだ。そうしたら私は何だろう。春の姉は、サクラの花がさいて、私は、サクラがさく前の木で準備をしているのかなと考えました。するととてもおもしろく、わらいがこみ上げてきました。

姉達は今、三年生が卒部し、一年生が加入した新体せいで部活をスタートしています。いろいろ変わって大変だと思うけど、また来年の夏も、青春のストーリーを見せてほしいなと思います。私も早く中学生になって吹奏楽部に入って、姉みたいな青春をおくりたいと思います。

「待ってろよ！私の青春！」